



「べこや〜」と、私をよぶ声が聞こえてきました。山まで私を迎えに来てくれた農家のお母さんです。

一日中、山野をかけまわり、新鮮な野草を思う存分食べて、夜は牛舎でぐっすり寝ることができました。お母さんたちは、毎日わたしを山へ連れて行ってくれたり、体をこすってくれたり、しきわらをいつも新しくとりかえてくれたりしました。みんながわたしをかわいがってくれました。

わたしは愛情をいっぱいけて大きくなっていきました。

(楠木優佑・安保和磨・牛田涼介)